

令和5年度  
袖ヶ浦市立図書館サービス状況  
点検・評価

令和6年8月  
袖ヶ浦市立中央図書館



## ◎令和5年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価について

“図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和7年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。”

（「袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画」3－5サービス評価指標 による）

図書館法は、第7条の3及び第7条の4において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するよう努めなければならないことを規定しています。

袖ヶ浦市立図書館は、平成23年度に袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画を策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館サービスの実施状況について年度ごとに点検・評価を行い、公表してきました。

第3次図書館サービス網計画の計画期間は令和2年度で満了し、袖ヶ浦市立図書館は、令和3年度を初年度とする袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画を新たに策定しました。今回は、前期計画3年目の点検・評価となります。

なお、第4次図書館サービス網計画の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年ですが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各5年に分け、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和7年度を目標年次としています。

## ◎令和5年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容(1)に対応するサービス評価指標(①～⑪)と、サービス内容(2)(3)に対応する参考指標(⑫～⑳)で構成されています。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標(※1)であることから評価の対象とせず、成果指標(※2)が主である①～⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとししました。

※1 活動指標：目標を達成するための手段（事業の進め方・やり方）の大きさを表す指標。（アウトプット指標）

※2 成果指標：事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標。（アウトカム指標）

### 1 点検

令和5年度に行った図書館サービスについて、第4次図書館サービス網計画のサービス内容(1)(2)(3)ごとの取組状況シートを作成し、「取組内容」「指標の実績値と達成率」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載しました。

## 2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容（１）（２）（３）のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめました。

## 3 評価

(1) サービス評価指標①～⑪の目標値に対する達成度を４段階表示しました。

◎：目標値に対して100%以上の達成率
○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率
△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率
×：目標値に対して60%未満の達成率

(2) サービス評価指標①～⑪の達成度について、◎を30点、○を20点、△を10点、×を0点として採点し、平均値を全体評価としてA・B・Cの3段階で表示しました。

全体評価区分
A：施策の成果が十分に図られている。24点以上（80%以上）
B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。 18点以上24点未満（60%以上80%未満）
C：施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。 18点未満（60%未満）

◎令和5年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画に定めるサービス評価指標の、令和5年度における達成度は以下のとおりでした。

令和5年度達成度点数合計 240 点 ÷ 項目数 10 = 平均値 24 点 ⇒ 全体評価：A

サービス評価指標	R7 目標値	R5 実績値	達成率	達成度	点数
① 市民1人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	11.0 冊	97.3%	○	20 点
② 袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	306 冊	102.0%	◎	30 点
③ 年間個人貸出利用者数	149,000 人	125,284 人	84.1%	○	20 点
④ 年間個人貸出資料点数	550,000 点	500,670 点	91.0%	○	20 点
⑤ 市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	7.6 点	89.4%	○	20 点
⑥ 年間市民新規登録者数	1,400 人	1,135 人	81.1%	○	20 点
⑦ 市民登録率	42%	37.1%	88.3%	○	20 点
⑧ 年間リクエスト処理件数	55,000 件	68,582 件	124.7%	◎	30 点
⑨ 年間レファレンス処理件数	1,200 件	1,394 件	116.2%	◎	30 点
⑩ 1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4,331.6 件	108.3%	◎	30 点
⑪ 来館者満足度	80%	偶数年度実施	/		
全 体 評 価					
				平均点 24 点	

【全体評価】

サービス評価指標 10 項目の達成度点数合計点 240 点を項目数 10 で除算した平均点は、24 点となり、全体評価は「A」となります。

## 【総括】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたこともあり、利用状況は令和4年度よりもさらにコロナ禍前の状況に戻りつつありますが、まだ完全に戻ったとは言い切れない状況です。

サービス評価指標では、全10項目全てで達成率80%以上となり前年度より改善しましたが、達成率100%を超えた項目は②、⑧、⑨、⑩の4つのみでした。

達成率80%以上100%未満となった6つの項目のうち、①一人当たりの所蔵図書冊数、⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数については、令和4年度に比べて減る結果となりました。要因としては木更津市立図書館と君津市立図書館において施設改修による長期休館が行われ、休館中多くの両市図書館利用者が当館を利用しましたが、両市図書館の再開館に伴い当館を利用しなくなったためと考えられます。引き続きより一層の利用拡大に向けて、限られた予算の中で図書館として必要な資料だけでなく、市民の暮らしがより豊かなものとなることを目指し、課題解決や生涯学習の一助となるべく、長い年月にわたり活用できる良書を厳選して購入し、資料の充実を図りたいと考えます。

⑦市民登録率については、令和2年度に市人口が令和7年度目標値65,000人を超え、令和6年3月末には66,041人となり微増ではありますが人口増加を続けています。市民登録率の目標値は市人口の42%で、27,738人の登録が必要でしたが、3,235人不足しており達成率90%を割り込むことになりました。利用登録がない人も図書館に関心を持ち、利用してもらえるように、来館のきっかけとなるようなおはなし会を始めとした各種イベントの開催やおすすめ図書などの資料情報を市の広報誌や図書館ホームページ、SNSなどを活用して積極的に市民に向けて発信し、新規登録者増に努めます。

③年間個人貸出利用者数、⑥年間市民新規登録者数の2項目についても達成率が90%未満であり、この項目の達成率を向上させることは、④年間個人貸出資料点数、⑦市民登録率など他の項目の達成率向上にもつながることから、前述のとおり利用者、新規登録者の増に取り組み、より多くの市民が「市民の書斎として、思索の場として、そして市民のふれあいの場として」図書館を利用するように努めます。

また、昨年度目標値に対し80%未満の達成率だった⑨年間レファレンス処理件数は、コロナ禍において、積極的な市民へのレファレンスの働きかけを控えていましたが、5類移行に伴い、フロアワークでの声掛けの再開や中央図書館での児童カウンターへの職員配置の再開などを行った結果、昨年度比で50%近く増加し、目標値100%を超える結果となりました。今後とも市民の課題解決支援として、声掛けなどの働きかけを継続していきます。

## サービス内容（１）「資料及び情報の収集、提供等」取組状況シート

### 取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

#### ① 図書館資料の収集

- ・「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入し、全館の開架資料 311,280 冊に対して 10,775 冊を受入（うち購入 10,074 冊）し、開架書架の約 3.5%を更新した。
- ・寄贈図書の受入れを積極的に行い、659 冊（一般書 640 冊（うち郷土資料 369 冊、一般用 271 冊）、児童書 19 冊）を受け入れた。
- ・行政資料については年度当初に市役所内に広く寄贈を呼び掛け、データのみで公表した資料は図書館で製本して受け入れたほか、電子資料としても保存することとした。図書館で製本した袖ヶ浦市関係郷土行政資料 50 タイトル、86 冊。
- ・電子図書館のコンテンツを利用状況や利用者の年代等を考慮して 239 点購入した。

#### ② 貸出サービス

- ☆予約・リクエスト資料をより早く多くの利用者に提供するため、1月から資料の取り置き期間を2週間から1週間に変更した。
- ・図書館で所蔵していない図書について、県内公立図書館および大学・県外図書館から図書を借用して利用者に提供した。3,399冊（うち大学・県外3冊）
- ★根形・平岡公民館図書室の利用促進を目的に本の取り寄せ方法等を記載したポスターを作成し、公民館図書室に掲出するとともに、講座等公民館事業の関連図書等を紹介するミニ特設コーナーを設置し、公民館利用者の関心が高い資料の紹介に努めた。
- ・幅広い年代に対して図書館の豊富な資料を紹介する取組として、特設コーナー等において図書館（中央・長浦・平川図書館）共通で市民の生活課題の解決に資するテーマを取り上げて積極的に提供したほか、平川図書館では蔵書内容の特性を活かし、独自のテーマで展示する月を設けた。秋のトショロ月間では「こんな本もあったんだ！？ちょっとマニアックな本たち」というテーマで長浦おかのうえ図書館カウンター前で展示・貸出を行った。
- ・webOPAC（インターネット上でアクセスできる蔵書目録）上で図書館おすすめに掲載している各種リストを適宜更新したほか、関心が高いと思われるNHKの朝の連続テレビ小説や大河ドラマに合わせたテーマなどを取り上げた。
- ・男女共同参画週間（6/23～6/29）に合わせ、6月の特設コーナー「共に生きる」で関連図書を紹介したほか、司書が選定した令和5年度版「男女共同参画社会図書リスト」を作成し、図書館（中央・長浦・平川図書館）だけでなく市民協働推進課でも配布した。
- ☆特設コーナーとは別に、時事的なテーマのおすすめ図書を紹介する取組として長浦おかのうえ図書館のカウンター前では時節に合わせたテーマに関するおすすめ図書コーナーを通年で設置し、幅広い資料の紹介を行った。
- ★公民館図書室にミニ特設コーナーを新たに作り、公民館の各種講座や季節に合わせたテーマで、資料の紹介を行った。

- ・映画会、文芸講座など読書普及事業の集会事業開催時に関連図書を紹介したほか、秋のトショロ月間では、長浦おかのうえ図書館カウンター前で成人向け講座の開催に合わせた関連図書の展示・貸出を行った。
- ・「若い人に贈る図書館お薦めの20冊」の図書リストを改訂して図書館内で配布したほか、館内の特設コーナー、webOPACの「図書館おすすめ」、X（旧ツイッター）で紹介した。
- ・市の広報誌の「おすすめ図書コーナー」で毎月2冊紹介文付きでおすすめ図書を掲載したほか、図書館ホームページに図書館員の個性を生かしたテーマで「図書館員のおすすめ」を2か月ごとに掲載した。
- ・「スタンプラリー」「本のおたのしみ袋」「えほんのふくぶくろ」など、貸出の増加につながる事業や企画を年間を通じて推進した。

☆公民館図書室の利用促進を図るため、長浦・平川で行っていた対象年齢別の「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」を6月以降は根形・平岡でも作成と随時提供を始めた。

★12月から市の電子申請システムを利用し、マイナンバーカードを使い図書館の利用申込を来館せずに行えるようにした。

- ・勤労世代や学生など余暇が少なく来館が難しい方でも好きなタイミングで図書を借りることが出来る電子図書館サービスを実施した。提供コンテンツ数531点、のべ貸出冊数2,269点、1か月あたり貸出冊数189.1冊（R4年度末の貸出冊数91.8冊）、1か月あたり利用人数62.7人（R4年度末の利用人数42.4人）

☆電子図書館にアクセスしやすい環境整備として、ホームページのトップページに電子図書館のリンクバナーを設置するとともに、新たなコンテンツの利用開始に合わせて市のLINE等で広報した。

☆図書館を直接利用しない市民にも図書館の資料を広く提供するため、団体貸出サービスについて、市内高齢者デイサービス提供事業者へ利用案内のチラシ送付を行った。

★部活動や学習などで余暇が少なく来館が難しい高校生に電子図書館の利用を働き掛けるため、11月に袖ヶ浦高校の1年～3年生の希望する生徒に対し、電子図書館の利用方法の講座を袖ヶ浦高校で実施し、生徒教職員合わせて42人が参加した。

☆中高生向けに電子図書館の利用についての図書館だよりの号外を12月に作成・発行し、SNS等で周知したほか市内中学校5校と袖ヶ浦高校への配布及び掲示依頼を行った。

### ③ レファレンス・情報提供サービス

- ・市民の課題解決を支援するため、インターネットやデータベース等も活用し、利用者の求めに応じて資料及び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進した。
- ・レファレンスにおいて、最新の情報の提供にはデータベースを積極的に活用し、利用者が求める資料や情報の提供を図った。
- ・袖ヶ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、県立図書館と国立国会図書館へのレファレンス依頼を行い、利用者の課題解決に努めた。

- ・袖ヶ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、郷土博物館と県立美術館へのレフェラルサービスを行い、利用者の課題解決に努めた。
  - ・利用者の求めに応じて、国立国会図書館や大学図書館へ文献複写を依頼し、袖ヶ浦市立図書館では所蔵していない専門的資料を提供した。(国会3件・県外図書館1件・大学1件)
  - ・パスファインダー(調べ案内)は大人向けに「『健康・医療』情報」改訂版、『高齢者介護』を、児童向けには「『お金』を調べる」をそれぞれ作成し、図書館のホームページに掲載した。紙の資料は全館で配布したほか、テーマに合わせ、健康推進課、高齢者支援課、介護保険課等関係機関にも配布して活用を図った。
- ☆ホームページに掲載しているパスファインダーについて、今まではPDFファイルのみの掲載だったが、すぐに関連本の予約ができるように関連本の所蔵一覧を新たに作成しリンクを表示させた。
- ・月替わりで時機をとらえた共通のテーマで関連図書を紹介する特設コーナーでは、SDGsの目標に対応したテーマを積極的に取り上げ、17の目標のうち8つの目標について紹介した。
  - ・市役所職員向けに毎月、袖ヶ浦市関連の新聞記事見出し一覧を公開するとともに、レファレンスサービスの周知を行った。
  - ・図書館だよりでレファレンスサービスに関する記事を掲載するとともに、市役所庁内に向けては庁内グループウェアを活用し周知を図った。
- ☆土日に中央図書館児童カウンターへの職員配置を再開するとともに、利用者が職員に相談しやすくなるように職員や委託スタッフの名札に「本探しお手伝いします。気軽にお声がけください」の案内表示を行い、さらに中央と長浦では夏休み期間中の入口付近での「夏休みの宿題応援します」という案内掲示を行いレファレンスの周知を図った。レファレンス処理件数1,394件(R4年度末の処理件数936件)

サービス評価指標	前期計画 目標値(R7)	R5 実績値	達成度
①市民一人当たりの所蔵図書冊数	11.3冊	11.0冊	○
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300冊	306冊	◎
③年間個人貸出利用者数	149,000人	125,284人	○
④年間個人貸出資料点数	550,000点	500,670点	○
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5点	7.6点	○
⑥年間市民新規登録者数	1,400人	1,135人	○
⑦市民登録率	42%	37.1%	○
⑧年間リクエスト処理件数	55,000件	68,582件	◎
⑨年間レファレンス処理件数	1,200件	1,394件	◎
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000件	4,331.6件	◎
⑪来館者満足度	80%	偶数年度実施	

## 成果・効果

- ・非来館での図書館の利用申込を可能にしたことにより、余暇時間が少なく来館が難しい人でも利用申込が可能になり、年間市民新規登録者数の増加と電子図書館利用促進に向けた環境整備ができた。
- ・公民館図書室で公民館事業の関連図書を紹介することで、公民館利用者の関心が高いテーマの本を紹介することになり図書室への来館契機を作ることができた。
- ・電子図書館についての積極的な周知及びコンテンツの数と質の充実を図った結果、令和4年度と比較して1か月あたりの平均利用人数が約1.3倍、貸出冊数が約1.7倍と大幅に増加した。
- ・中央図書館児童カウンターへの職員配置や名札への声掛け案内貼付、宿題応援の案内掲示などレファレンス件数増につながる取組を積極的に行ったことにより、レファレンス処理件数が令和4年度と比較して1.7倍と大幅に増加した。

## 課題

- ・様々なおすすめ図書の紹介や電子図書館サービス、読書普及事業などの取組に加え、新たな取組として利用申込の電子申請化を行い利用の増を図ったが、LED化工事に伴う臨時休館の影響もあり、個人貸出、新規登録ともに伸び悩んでいる。
- ・電子図書館の利用は、広報や講座などのPR活動により一時的に利用が増加するものの継続的な利用につながりにくい。
- ・電子図書館の主な利用者世代は主に40代から60代であり、周知に努めているものの10代から20代はまだ少ない状況が続いており、引き続き10代から20代の利用促進について検討し取り組む必要がある。

## 今後の対応

- ・JR袖ヶ浦駅、JR長浦駅、袖ヶ浦市役所市民課前に設置の市政情報モニターや袖ヶ浦市公式LINEにおいて、図書館について広報し利用喚起を図る。
- ・袖ヶ浦高校の新生に利用申込書を配布し、申込希望者は学校を通じて申し込めるようにすることで、新規登録者数と利用の増を目指す。
- ・電子図書館の利用増に向けて、引き続きコンテンツ内容や電子申請の周知に努め、幅広い年齢層の継続的な利用を目指して厳選したコンテンツの選定と収集を行うとともに、10代から20代の利用促進に向けて利用講座の開催など袖ヶ浦高校生への働きかけを積極的に行う。
- ・図書館システム更新において、webOPACで電子図書館の資料検索を行えるようにシステムの連携を行い、利用者の利便性向上と電子図書館の利用増を図る。
- ・令和6年度の図書館システム更新において、レファレンスの内容をシステム内でデータベース化する機能を追加し、全館で共有化することでレファレンス業務の効率化と利便性の向上を図るとともに、図書館資料の利用増につなげる。

## 図書館協議会の意見

- 電子図書館については、当初の想定とは違う利用者層となったようだが、それもひとつの成果と言えるのではないのでしょうか。今後、若い世代が利用するような取組を行いつつ、実際に利用している世代のニーズに応えていくことも必要と思います。
- 電子図書館のリンクバナーが図書館ホームページ設置されましたが、目立たないところにあつたので、もっと目立つ場所に設置してはいかがでしょうか。
- 電子図書館の電子書籍の多くが貸出されているということは、良い選書がされていることだと思います。
- 特設コーナーやパスファインダーなど資料の紹介において、紹介された資料が予約できるようにWebOPACにリンクしているのは、紹介と貸出の一体化がされており良い取り組みです。
- オンラインでの利用登録により一度も来館せずに電子図書館が利用できることはサービスとしては便利ですが、施設としては使われないという事でもあり、書店などの他のサービスとの違いがなくなることを懸念します。
- レファレンスの件数が格段に増えています。名札への案内表示の効果とともに図書館職員の役割や専門性が利用者にもアピールできているのではないかと思います。

## サービス内容（２）「利用者に応じたサービス」取組状況シート

### 参考指標

#### 取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

##### ① 乳幼児と保護者に対するサービス

☆「すきすき絵本タイム」を、夏と秋のトショロ月間内のイベントとして根形公民館図書室で実施したほか、平岡公民館図書室での乳幼児向けのイベントを要望する声に応え、4月と秋のトショロ月間内のイベントとして令和元年以来4年ぶりに実施したところ、4月は19人、秋のトショロ月間内では31人の参加があった。

- ・家庭における読書活動を推進するため、保健センターと中央図書館における「図書館でブックスタート」を毎月1回ずつ実施した。配布率72.8%。

☆「図書館でブックスタート」は中央図書館2階で開催していたが、乳児を抱きかかえて階段を上がるなど保護者の負担が大きかったので、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い部屋の収容人数の制限が緩和されたことにより、1階児童室のおはなしのへやに会場を変更し、参加者の負担軽減を図り参加しやすくした。

☆ブックスタートボランティア養成講座（全3回）を開催し、14名の応募があった。終了後12名が新たにブックスタートボランティアに登録し、活動を始めた。

- ・「図書館でブックスタート」は通常第3火曜日に開催しているが、平日に都合がつかない方の参加を考慮し、夏のトショロ月間と秋のトショロ月間内では土日に開催した。

☆利用者のニーズが高いことから、0歳からの「おひざにだっこのおはなし会」を合計で14回実施した。毎開催日2回開催予定で参加者を募集したところ、どの館でも毎回ほぼ満席になった。

- ・中央、長浦おかのうえ、平川図書館で「えほんのひろば」や「おはなし会」と「子ども映画会」を対象年齢をあわせて同日に開催することで、相乗効果により単独開催と比べてそれぞれの参加者が増えた。
- ・ウェブ上で参加申し込みができる「図書館でブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」「おはなし会」について、新聞購読をしていないなどの理由で広報に接することが少ない市民に向けて、毎月月初めに市のLINEで案内を行った。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストの発行と図書館ホームページへの掲載を行ったほか、児童室で季節や事物など様々なテーマでおすすめ図書を展示し適宜X（旧ツイッター）で周知した。
- ・夏のトショロ月間では子どもたちが読書に関心を持つきっかけとなるように「お題の本 DE BINGO!!」（平川）や「としょかんでなつのうみをつくろう！」（根形・平岡）を実施し、秋のトショロ月間では「トショロのまちがいきがし」（平川・根形・平岡）と合わせて間違い探しのテーマに合わせた絵本の展示・貸出を行った。

##### ② 児童・青少年に対するサービス

- ・館内おはなし会を定期的に開催したほか、保育所・小学校・中学校・学童保育等

への出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 474 回

- ・定期開催のおはなし会への参加が少ない小学校中学年以上の子ども向けに内容やテーマを設定して長浦おかのうえ図書館で「ちょっぴりこわいおはなし会」、中央図書館で「ちょっぴりながいおはなし会」、「英語でおはなし会」を夏のトシヨロ月間内で開催した。
  - ・夏のトシヨロ月間期間内に設けた夏休みの課題支援の一環で、調べ学習や読書感想文、自由研究についての問い合わせに多数対応したほか、読書感想文におすすめの図書のリストやパスファインダーを作成し館内での配布および貸出を行った。また、X（旧ツイッター）での周知、図書館ホームページへの掲載を行うなど積極的に支援した。
  - ・年齢別おすすめ図書リストを2回作成し、図書館ホームページへの掲載と館内だけでなく学校や保育所等へ配布した。各館の児童室では、テーマを決めた定期的なおすすめ図書の紹介展示を行った。
  - ・こどもの読書週間記念行事で実施するスタンプラリーを公民館図書室への来館機会にするために、専任職員在室日に来室するごとにスタンプを1つ押印することにしたところ、平岡公民館図書室では参加者が前年比13人増となった。
- ★部活動や学習などで余暇が少なく来館が難しい高校生に電子図書館の利用を働き掛けるため、11月に袖ヶ浦高校の1年～3年生の希望する生徒に対し、電子図書館の利用方法の講座を袖ヶ浦高校で実施した。（再掲）
- ☆中高生向けに電子図書館の利用についての図書館だよりの号外を作成・発行し、SNS等で周知したほか市内中学校5校と袖ヶ浦高校への配布及び掲示依頼を行った。（再掲）
- ・青少年の図書利用を促進するため、中学生向けの「ジュニアコーナー」や高校生向けの「青少年コーナー」の充実を図ったほか、昨年度に引き続き中学生・高校生向けに「イチオシ本のPOPを書こう！」を企画し、小学校2校、中学校4校、高校1校から612人の参加があった。

### ③ 成人に対するサービス

- ・月替わりでおすすめ図書を紹介する特設コーナーにおいて、時節柄関心の高いテーマを取り上げ、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」にもリストを掲載し、ホームページのお知らせ、X（旧ツイッター）でも広報した。
  - ・会議資料の作り方、起業、転職、経営に関する本など、働く上で役立つビジネス資料を積極的に収集し、さらに、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」のリストに掲載している「ビジネス書（2023年発行）」を4回更新し、図書館で購入した新刊ビジネス書の紹介に努めた。
- ★高齢者向け講座に代わり、成人向け講座として「そろそろ始める 団塊ジュニアのための老後資金計画」を開催し定員80人に対し47人の参加、参加者の満足度は約80%であった。現役世代の参加促進のためウェブ上で参加申込をできるようにし、さらに土曜日に開催したところ、40代から50代の現役世代の参加が多数あった。また、講座に関連し、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で「シニアライフをたのしむ」というテーマで関連図書の展示・貸出を行い、貸出冊数の増加につながった。

- ・文芸講座では、ウェブ上からも参加申込ができるようにして利用者の利便性の向上を図ったほか、新型コロナ5類移行による規制緩和を受けて令和2年度以来3年ぶりに希望者と講師による懇談会を行い、理解を深める機会を作った。

#### ④ 高齢者に対するサービス

- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と医学関連の図書を積極的に収集した。社会福祉の分野の図書(一般書)を全館で104冊収集し、同分野の全開架図書2,209冊の約4.7%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で502冊収集し、同分野の全開架図書9,550冊の約5.3%を更新した。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、大活字本180冊(67タイトル)や朗読CD16点(12タイトル)を購入した。webOPACの「図書館おすすめ」に掲載している「大活字本リスト 小説・2021年から発行」のリストを更新し、資料の紹介に努めた。
- ・映画会について新型コロナウイルス感染予防対策として予約制としてきたが、規制緩和に伴い予約不要としたことにより、気軽に参加できるようになった。また、参加者の作品理解を深めるために、作品上映のみならず関連図書の展示・貸出や解説書の配布を行った。

#### ⑤ 図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民を対象に、依頼に応じて図書館資料を届ける宅配サービスを実施した。宅配による貸出141冊
- ☆加齢による身体の虚弱等により自力来館が難しいなど、袖ヶ浦市立図書館管理運営規則で定める宅配サービスの要件に該当しない来館困難者への宅配について、利用要件を緩和し、令和7年度末まで試行実施することとした。
- ☆学習障がい等により読みに苦手さのある子どもへの図書流通システムを通じた読書支援サービスについて、小中学校の教員向けにサピエ図書館やデイジー図書(※)を案内する『読書支援サービス通信』を年2回作成・配布し、周知と利用の促進に努めた。
- ☆団体貸出の利用案内のチラシを、これまで未送付であった放課後等デイサービスと児童発達支援施設へ送付し、障がいを持つ子どもの読書機会の充実と団体貸出の利用増を図った。

#### ⑥ 多文化サービス

- ・外国語(英語)の図書14冊(一般書2冊、児童書12冊)を購入し、webOPACの「図書館おすすめ」にも「令和5年度受け入れ洋書リスト」を掲載して資料の紹介に努めた。※外国語図書(一般)1冊寄贈あり
- ・外国語資料を活用した取組として、夏のトショロ月間の中で「英語でおはなし会!」を2回開催し、日本語と英語の両方で読み聞かせと手遊びを行い小学校中学年や高学年の子どもの参加があった。併せて、会場に洋書絵本を展示し、外国語資料の紹介に努めた。

- ・外国語図書コーナーのない長浦おかのうえ図書館、平川図書館、根形公民館図書室で外国語の絵本を日本語訳の絵本と並べて紹介展示し、貸出の機会を設けた。

参 考 指 標	前期計画 目標値 (R7)	R5 実績値	達成度
⑫ブックスタートの年間配布率	80%	72.8%	○
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900 人	1,045 人	◎
⑭おはなし会の年間実施回数	480 回	474 回	○
⑮子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6 回	7 回	◎
⑯成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12 件	49 件	◎
⑰大活字本の年間貸出冊数	4,000 冊	4,360 冊	◎
⑱宅配による年間貸出資料点数	330 点	141 点	×

### 成果・効果

- ・中央図書館児童室のおはなしのへやで「図書館でブックスタート」を行うことで貸出カウンターが近くなり、ボランティアが幼児絵本コーナーや育児本コーナー、0歳児から利用券が作れることを案内すると利用券を作成し借りて帰る参加者が多く、利用促進にもつながった。
- ・袖ヶ浦高校生に電子図書館利用方法の講座を実施したことで、13歳から18歳までの実利用者数が28人増加した。電子図書館を継続利用している生徒も数人おり、電子図書館の10代の利用促進につながった。
- ・乳幼児向けに「ブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」を行ったほか、3歳から小学低学年向けと小学校中学年から高学年向けに「ちょっぴりこわいおはなし会」、小学校中学年から中学生向けには「ちょっぴりながいおはなし会」やを実施するなど、より幅広い年代に対して子どもの発達段階に応じた読書活動を推進することができた。
- ・市のLINEで図書館の子ども向けイベントをホームページの案内ページへのリンクを付けた画像によりPRすることで、関心を持った利用者がすぐに申込みできるようになり、LINEの配信直後に申込みが増えるなど参加者の増につながった。
- ・多言語電子絵本を含む「読書支援サービス」についてのチラシを配布したことで、読書支援サービスの対象ではないが日本語を母語としない児童のために、多言語電子絵本を借りたいと小学校教員より問い合わせがあり、個人の資料利用券で貸出を行った。

### 課題

- ・映画会で使用する上映権付DVDについて、上映可能場所がDVDの所蔵館に限られることになり、各館で上映できる作品が大幅に減少したため、上映回数等を見直す必要がある。
- ・読書支援サービスは、教員向けに『読書支援サービス通信』を作成・配布しサピエ図書館とデイジー図書への理解醸成に努めているが、実際の利用に結びついていない。

- ・宅配サービスについては、新型コロナウイルスにより利用を停止した方の利用再開がなく、今年度新たに1人から利用の申込みがあったものの利用者数は大きく減少したままである。

### 今後の対応

- ・0歳児からの「おひざにだっこのおはなし会」はニーズが高いことから、来年度は長浦おかのうえ図書館と平川図書館で開催日を1日ずつ増やして実施する。
- ・映画会で上映できる作品の購入を継続的に行うとともに、映画会の実施回数を見直して図書館（中央・長浦おかのうえ・平川）での定期的な映画会開催に努める。
- ・読書支援サービスについて、引き続き『読書支援サービス通信』などを通じて学校への周知に努めるとともに、児童発達支援施設や特別支援学校などの施設に対しても、デージー図書の貸出等の周知を図る。
- ・宅配サービスについて、現在利用していない宅配サービス利用登録者の状況確認を行い、必要に応じて利用再開について案内をするとともに、関係団体等を通じた案内の送付など周知の拡大を図る。

### 図書館協議会の意見

- ・利用者層に応じた様々なプログラムが用意されており、事業の頻度も多く「誰もが学ぶ」環境づくりが成されていることを評価します。
- ・どの図書館、図書室でも、子ども向けのイベントや取組をこつこつ続けていることが素晴らしいと思います。図書館・図書室に足を運ぶことを楽しみにしている親子のためにも、ぜひ続けていただきたいと思います。
- ・青少年は図書館を利用する機会が少なくなりがちな世代であるため、取組の成果が現れにくいのは仕方のないことだと考えます。しかし、今後図書館を必要とする可能性は十分にあると思うので、図書館や図書館サービスを知っておいてもらう意味でも、若い世代への働きかけや取組は続けていただきたいと思います。
- ・一般向けにも電子図書館の使い方の講座を複数回開催してはいかがでしょうか。
- ・英語の資料のみで多文化と言えるのか疑問です。本来は外国人住民のニーズの調査から始めるべきと考えます。
- ・袖ヶ浦市でも外国人が増えていることから、日本語教育を図書館だけでなく市全体の問題ととらえ、施策として検討していくべきと考えます。

※ **デージー図書**:デージー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デージー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデージー」などがあり、専用の再生機又は再生用ソフトウェアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。

## サービス内容（3）「多様な学習機会の提供」取組状況シート

### 参考指標

#### 取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

##### ① 学校との連携

☆図書流通システムでの開架資料の貸出基準として新たに「図書流通システム開架資料貸出要項」を定め、これまで収蔵庫資料では対応が難しかった比較的新しいデータが掲載された資料などを貸出できるようにした。図書流通システムでの開架資料貸出冊数 135 冊

- ・学校の読書や調べ学習を支援するため、市内小中学校からの依頼に応じて図書流通システムにより 4,866 冊の団体貸出を行ったほか、学校貸出用利用券により開架資料 679 冊を貸出した。また、袖ヶ浦高校にも 59 冊の団体貸出を行った。学校図書館への貸出冊数合計 5,545 冊。
- ・中央図書館で奈良輪小児童、平川図書館で中川小児童による授業の成果物の展示を行ったほか、根形中図書委員が委員会活動で作成した「おすすめの本」を中央図書館で展示した。また、夏のトショロ月間では中央図書館で昭和中図書委員会のおすすめ図書展示、中央図書館で袖ヶ浦高校図書委員による「袖高とコラボ！親子いっしょのおはなし会」、長浦おかのうえ図書館で蔵波中美術部の作品展示を行った。
- ・市内の小中学校・高校と連携して「イチオシ本のPOPを書こう！」を実施し、小学校 2 校、中学校 4 校、高校 1 校の計 7 校から 612 人の参加があった。
- ・昭和小 2 年生、蔵波小 2 年生のまち探検の受け入れを行ったほか、中央図書館で昭和中 2 年生の職場体験の受け入れを行った。

##### ② 関係機関との連携

★秘書広報課が企画実施した夏休み子ども向け市内周遊型謎解きイベント「ガウラを探せ たぬき探偵ジェリーの袖ヶ浦冒険日記」において、長浦おかのうえ図書館がチェックポイントとなり、ガラスケース内で展示中の小説のタイトルが謎を解くカギになった。普段図書館を利用しない人の来館契機にもなり、イベント期間中は親子連れなどが多数来館した。

- ・市民会館・平川公民館合同開催の乳幼児家庭教育学級（うたたねハッピーくらぶ）において読み聞かせと図書館活用法紹介講座「絵本の読み聞かせ&図書館を活用しよう」を行った際に図書館から講師を派遣した。
- ・郷土博物館との連携事業として郷土博物館企画展「袖ヶ浦市の外来種」に関連して中央図書館で「外来種と絶滅危惧種」の資料展示を行った。図書館展示側に企画展のポスターやチラシを掲出することで相乗効果がもたらされるよう工夫した。
- ・根形公民館と平岡公民館の公民館講座に関連図書を提供し、講座内で図書の紹介をしてもらったほか、公民館まつり開催時は図書室で「すきすき絵本タイム」を実施した。
- ・市役所の関係課からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し提供した。問い合わせ件数 8 件
- ・男女共同参画週間（6月23日～29日）の時期に「図書館おすすめ男女共同参画

社会関連図書リスト」を作成し、図書館・図書室5館のほか、市民協働推進課へも配布した。

### ③ ボランティア活動等の推進

☆ブックスタートボランティア養成講座（全3回）を開催し、14名の応募があった。終了後12名が新たにブックスタートボランティアに登録し、活動を始めた。（再掲）

- ・おはなし会やブックスタート（すきすき絵本タイム含む）、映画会、資料展示、工作など市民ボランティアとの連携により、読書普及事業を推進した。
- ・乳幼児向けおはなし会の依頼が増えていることから、「わらべうた」をテーマにしておはなし会ボランティアスキルアップ講座を経験の長いボランティアを講師に開催した。また、特に経験の浅いおはなし会ボランティアのスキルアップを目的に、絵本の読み聞かせと素話の練習会を2回開催した。
- ・夏のトショロ月間の「英語でおはなし会!」、秋のトショロ月間「青空かみしばい劇場」と「ハロウィン工作教室」において、社会教育推進員から内容や会場の装飾などについて様々なアイデアが出され充実した催しを実施できた。
- ・中央図書館の資料展示において、展示ボランティアが毎回テーマに則した様々な飾りや立体物を手作りしてくれるため、展示自体が華やかになるとともに来館者が展示に関心を持つ契機になっている。
- ・映画会ボランティアの映画に関する豊富な知識を活かして上映作品選定や作品紹介を行うとともに、ボランティアが受付をすることで上映作品の要望など参加者からの意見を得やすくなった。
- ・秋のトショロ月間では図書館登録サークルによる成果発表の場を設け、俳句・短歌作品展示や人形劇団による人形展示と人形劇、「大人のためのお話し会」や朗読発表会を行い、サークル活動の活性化を図った。また、図書館で所蔵する関連図書の紹介もあわせて行った。

### ④ 図書館からの情報発信

・図書館が広く市民に活用されるために、市の広報紙や公式LINE、図書館のホームページ、X（旧ツイッター）やメールマガジン、図書館だより等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行った。また、市のインスタグラムでも秘書広報課により図書館の情報を紹介した。

☆中高生向けに電子図書館の利用についての図書館だよりの号外を作成・発行し、SNS等で周知したほか市内中学校5校と袖ヶ浦高校への配布及び掲示依頼を行った。（再掲）

☆ホームページに掲載しているパスファインダーについて、今まではPDFファイルのみの掲載だったが、すぐに関連本の予約ができるように関連本の所蔵一覧を新たに作成しリンクを表示させた。また、読書普及事業の実施状況についてもフォトニュースやX（旧ツイッター）を通じて積極的にPRした。

★多くの市民に周知が図れるようJR袖ヶ浦駅、JR長浦駅、市役所に設置している市政情報モニターに、秋のトショロ月間と電子図書館についての案内を映した。

★減少している長浦おかのうえ図書館の児童書の利用を増やすため、新たに長浦おかのうえ図書館の子ども向けイベントや本を紹介する『おかのうえ通信』を作成・発行し、長浦地区の幼稚園及び造成等により新たな住民が増えている近隣3自治会に年2回配布した。

参 考 指 標	前期計画 目標値(R7)	R5 実績値	達成度
⑱学校図書館への年間貸出図書冊数	3,500冊	5,545冊	◎
⑳学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7回	8回	◎
㉑公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7件	16件	◎
㉒図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25回	25回	◎

### 成果・効果

- ・学校への図書貸出について一部開架資料の貸出を開始したこと、学校のニーズに的確に応えたことなどにより貸出の増加につなげることができた。
- ・児童生徒の作品展示やPOPについて学校に積極的に周知を図ってきたことにより、これまで申込みの無かった学校から作品展示の申込みがあるなど新たに3校と連携することができた。
- ・公民館や郷土博物館と連携した取組を推進し、互いの事業を充実させることができた。
- ・図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、図書館の運営や読書普及事業の内容を充実させることができた。特にブックスタートボランティアについては養成講座修了生が新たにボランティア登録をして活動を開始した。
- ・図書館ホームページ上で様々なコンテンツを更新・新規作成したほか、メールマガジンだけでなくX（旧ツイッター）も積極的に配信するなど、図書館からの情報発信を充実させることができた。また、市の公式LINEやインスタグラムも活用し幅広く発信した。

### 課題

- ・X（旧ツイッター）を活用し情報発信を行っているが、Xの仕様変更によりホームページのトップページに設置したタイムラインウィジェットに投稿が表示されず、図書館からの情報発信に影響が生じている。

### 今後の対応

- ・図書館システム更新において、見やすさや使いやすさに留意し、情報発信能力を向上させたホームページの作成を目指す。
- ・社会教育施設の事業への資料提供や市役所各課からのレファレンス受付等、関係機関との連携をより一層推進する。

## 図書館協議会の意見

- ・長浦おかのうえ図書館の開架資料も図書流通システムで貸出されるようになりましたが、開架資料と書庫資料の判別がつきにくく学校での取り扱いに苦慮しています。また、開架資料の取り扱いに気を使う必要があり、校内での貸出を控えています。学校で利用しやすくなるように利用方法の変更などの対応を望みます
- ・図書館では多くのボランティアが活動されています。ボランティア全体に光をあて、成果の発表の場や活動について紹介していくことも重要だと考えます。
- ・郷土博物館や市民会館の事業等、他事業や他課との連携が活性化、多様化しています。互いの課が協業することのメリットを認知し合い、相乗的な効果と市民にとって学びの進化につながることを期待します。
- ・様々な媒体による広報活動の取組を評価します。しかし、媒体には媒体の特性があるため、その特性を生かしたメッセージの発信についても注意していただきたいと思います。